

令和7年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会

短期入所生活介護

姫路・勝原木一ム短期入所生活介護

令和7年度 事業計画

目 標	自宅生活と変わらない支援を提供していくことで再利用や新規利用者を増やし、稼働率 95%以上を目指す。
理 由	自宅と異なる環境から利用時に不安を感じる様子が窺えるため、生活歴や住環境に関する情報を収集し、一人ひとりに合った生活スタイルでの利用をすすめ、再利用につなげていきたいため。 また、家庭環境などを踏まえ、短期入所から施設入居とつなげることも意識し、居宅介護支援事業所や特別養護老人ホーム申込者、医療機関の地域連携室などにも働きかけ、新規利用を増やしていきたいため。
具体的対応策	1. 利用者、家族や担当介護支援専門員から生活歴や生活様式、生活習慣、住環境などの情報を収集する。 2. 収集した情報をもとに 24 時間シートを作成し、多職種も含め、担当職員間で話し合い、情報共有と共通認識による支援をすすめていくことで、関わり方や支援など対応方法の統一を図る。 3. 利用者個々の想いを尊重した時節が感じられるプログラムを用意し、実行状況も含め、利用時の様子を連絡帳や便りにて情報を発信する。 4. 居宅介護支援事業所や医療機関の地域連携室など連絡を密にとり、空床状況を伝え、利用斡旋や調整を行う。 5. 家庭環境などから徐々に自宅生活が難しくなっている利用者や特別養護老人ホーム申込者に対し、連続利用を斡旋し、施設入居につなげていく。

令和7年度 事業報告

事業報告	利用にあたり、環境の変化による不安を軽減するため、利用者・家族および担当介護支援専門員より生活歴や生活様式、生活習慣、住環境等の情報収集を行い、個々の生活スタイルに沿った支援の提供に努めた。収集した情報については概ね把握できており、関係職員間での共有も図れている。また、利用者一人ひとりの想いを尊重し、季節感を取り入れた創作活動や行事を実施した。文化祭への出展作品の制作やホール掲示、ショート便りでの発信を行うことで、利用者のやりがいや創作意欲の向上につながった。しかし、情報伝達や調整不足から共通認識に至らない場合があり、一人ひとりの状態に合った支援ができなかったこともあったため、申し送りなどで情報共有や共通認識度を把握し、改善に努めていきたい。 全体で行うレクリエーションは、より多くの利用者が楽しめるような活動内容を検討し、ほぼ毎日継続して行った。塗り絵やちぎり絵など個別のレクリエーションについても時間の許す範囲で継続している。あわせて、創作活動として、できあがった作品は利用者の見やすい場所に掲示することで達成感が得られ、次の作品づくりへの意欲につながるようにも努めた。また併設特別養護老人ホームとも連携を図り、納涼大会やクリスマス会を催し、内容を広報誌にて発信した。 接遇は、日常の申し送りにて、法人内研修で学んだことが実践できているかどうか、確認し、より適切な対応になるよう、努めている。
------	---

事業運営総括

令和7年度は、稼働率95%以上の達成を目標に事業運営を行ったが、結果として目標達成には至らず、利用者確保および受け入れ体制に課題が残る一年となった。

今年度は新型コロナウイルス感染症による影響はなかったものの、施設入居や入院等によるキャンセルが発生し、空床が継続的に生じる状況が見られた。これに対し、各居宅介護支援事業所へ空床状況の案内を行い、利用調整を図ったが、実際の利用には結びつかず、空床を十分に埋めることができなかった点は大きな課題である。

また、居宅介護支援専門員への情報発信や宣伝活動を実施したものの、利用ニーズとの合致や即時対応の体制が不十分であったことから、稼働率の改善には至らなかった。特に、急なキャンセル発生時に迅速かつ具体的な提案が行えず、機会損失につながったことは改善すべき点である。

さらに、収集した利用者情報の活用や更新が十分とは言えず、支援方法や受け入れの判断にばらつきが生じていたことも、円滑な受け入れ調整を妨げる要因となった。情報共有の仕組みや活用についても実効性のある運用が求められる。

今後は、空床発生時に即応できる体制の構築とともに、居宅介護支援事業所や医療機関との連携の質を高め、具体的な受け入れ提案につなげていく必要がある。また、利用者情報の整理・更新を徹底し、多職種間での共通認識を強化することで、受け入れの柔軟性と精度の向上を図る。

あわせて、併設特別養護老人ホームとの連携をより強化し、入居申込者への継続利用の提案など、安定した利用につながる取り組みを具体的に推進していく必要がある。

今後はこれらの課題を踏まえ、実効性のある改善策を講じることによって、安定した稼働率の確保と事業運営の質の向上を図っていく。

要介護度の状況 《平均要介護度 介護 2.6》

令和8年3月31日 現在

	人 数	割 合
要 支 援 1	0	0%
要 支 援 2	1	4%
要 介 護 1	5	20%
要 介 護 2	8	32%
要 介 護 3	2	8%
要 介 護 4	7	28%
要 介 護 5	2	8%
合 計	25	100%

月間利用実績（人数）

令和7年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
要 支 援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
要 介 護 1	5	5	5	6	6	7	6	8	4	6	4	5	67
要 介 護 2	6	9	9	8	7	8	9	8	6	7	5	8	90
要 介 護 3	4	5	7	7	6	7	7	6	5	4	2	2	62
要 介 護 4	7	8	6	8	7	5	7	6	6	5	8	7	80
要 介 護 5	2	2	0	2	3	1	2	1	2	3	3	2	23
合 計	24	30	28	32	30	28	31	29	23	26	23	25	329

月間利用実績（延べ人数） 《稼働率 85.6%》

令和7年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	0	2	6	6	2	0	0	0	0	0	0	0	16
要 支 援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	8
要 介 護 1	62	61	70	64	87	80	66	80	64	72	72	86	864
要 介 護 2	62	72	64	77	78	79	89	66	52	49	33	54	775
要 介 護 3	37	45	60	92	44	48	64	69	68	68	34	16	645
要 介 護 4	90	71	47	56	50	30	40	35	43	40	48	73	623
要 介 護 5	15	6	0	11	29	15	23	12	15	21	30	18	195
合 計	266	257	247	306	290	252	282	262	242	252	219	251	3,126

曜日別延べ利用実績

令和7年度

	月	火	水	木	金	土	日	合計
人 数	473	428	447	466	478	433	401	3,126
割 合	15%	14%	14%	15%	15%	14%	13%	100%

1 週当り平均利用人員

令和7年度

	月	火	水	木	金	土	日	合計	1日平均
人 数	8.7	8.5	8.7	8.8	9.0	8.4	8.1	60.20	8.60
割 合	15%	14%	14%	15%	15%	14%	13%	100%	

年齢別構成状況

令和8年3月31日 現在

	65歳以下	65歳以上 70歳未満	70歳以上 75歳未満	75歳以上 80歳未満	80歳以上 85歳未満	85歳以上 90歳未満	90歳以上	合 計
男	0	0	0	1	1	1	2	5
女	1	0	1	1	2	7	8	20
全 体	1	0	1	2	3	8	10	25

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4 月		壁紙作り・計算 外出ドライブ・数字パズル	連想ゲーム ビンゴゲーム
5 月	下太田花まつり	壁紙作り・ちぎり絵・漢字 トレーニング・点つなぎ	都道府県ゲーム
6 月	BBQ大会	壁紙作り・塗り絵 脳トレーニング	連想ゲーム ビンゴゲーム
7 月	七夕の飾りつけ	壁紙作り ちぎり絵・数字パズル	連想ゲーム
8 月	納涼大会	壁紙作り・ことわざクイズ ちぎり絵・パズル	連想ゲーム
9 月		壁紙作り 塗り絵・点つなぎ	連想ゲーム
10 月		壁紙作り・脳トレーニング 外出ドライブ・ちぎり絵	ボールゲーム
11 月	やながせ文化祭	壁紙作り・塗り絵 漢字トレーニング	連想ゲーム 点取りゲーム
12 月	クリスマス会	壁紙作り・脳トレーニング 塗り絵	ビンゴゲーム
1 月	正月飾りづくり	壁紙作り・脳トレーニング 折り紙	福笑いゲーム カルタ
2 月	節分豆まき	壁紙作り・数字パズル カルタ・ことわざクイズ	連想ゲーム ボールゲーム
3 月	レクリエーション大会	壁紙作り・数字パズル 飾り作り・脳トレーニング	ビンゴゲーム 連想ゲーム
定期的	お誕生会	飾り作り・塗り絵・パズル	足踏み・音楽による体操 リハビリ体操・口腔体操 連想ゲーム

苦情対応

受付日	苦情内容	解決方法
令和8年 2月2日	「靴の取り違いについて」 退所後、家族より「持ち帰った靴が本人のものと異なる」との連絡があった。	①謝罪を行うとともに帰宅した他利用者に確認できしだい、連絡することを説明する。 ②他利用者家族の連絡がつき、靴の取り間違いが確定し、双方宅を訪問して、返却を行い、陳謝する。 ③今後は靴および衣類への記名確認の徹底と、職員によるダブルチェックの実施することの周知徹底に努めることを説明すると双方から理解が得られた。
令和8年 3月13日	「車いすの破損について」 退所後に家族より「持参したリクライニング式車いすが破損している」との連絡がある。	①可動ワイヤーの不具合があり、部品が外れていたにも関わらず、帰宅時の説明が不十分であったことを陳謝する。 ②持参の車いすに異常や故障した場合には、帰宅時に故障箇所と経緯を報告することを説明すると理解が得られた。

事故対応

事故なし

※ 職員間の内部研修、外部研修、避難訓練については、併設の特別養護老人ホームと合同で行い、参加している。